

ニッキン投信情報の連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第9弾が公開されました！

ニッキン投信情報（2月10日号）にて、弊社取締役 営業マーケティング本部長の面谷 祥友による連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第9弾が公開されました。

本連載は計12回（毎月1回）を予定しています。

第9回目となる本紙では“世界トップクラスのインドIPO市場とユニコーン企業”について寄稿させて頂きました。

ニッキン投信情報 2025年2月10日発行 第1351号 (1)

ニッキン投信情報

発行所 日本金融通信社 © 2025 〒102-8677 東京都千代田区九段南4-0-15 電話 03(3261)9971
週刊（毎週月曜日発行） 購読料1ヵ年165,000円(税込)

CONTENTS

07 地域金融機関のファンド別預かり資産残高・販売額（2024年9月末）
24年度上期販売額1位はAM-One「日経225ノーロードOP」で1,009億円
地域金融機関（地銀、第二地銀、信金、信組）を対象に、取り扱いファンド別の預かり資産残高（2024年9月末）、販売額（24年4～9月）を調査した。24年度上期の回答機関合計の販売額最多ファンドは、1,009億円でAM-One「日経225ノーロードオープン」だった。

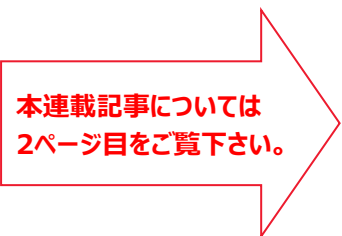
順位	ファンド名	24年度上期(24年4-9月)の販売額(億円)	24年度上期(24年4-9月)の預かり資産残高(億円)
1	AM-One 日経225ノーロードOP	1009	5387
2	みずほ 先進国株式ファンド225	845	2792
3	野村 日経225ノーロードOP	814	3145

※「24年度上期」は2024年4月1日～2024年9月30日までの期間を指す。調査対象は、地域金融機関（地銀、第二地銀、信金、信組）。

03 ルーテンな監査業務
04 投資家販売促進者に関する 広島信用金庫 横川支店 常盤那摩さん
支店窓口の表裏に貢献
03 ファンド男島 大坂府
NISA口座獲得・利用促進に工夫 対面営業の強み生かす
06 レオス「ひふみマイクロスコープ」
小型件運用の強み生かす 徹底した調査でダイヤの原石を発掘
44 富坂ファンドの分配実績（2024年12月末）
野村「世界業種別投資（世界半導体株）」が9,000円で年間分配金額トップ
09 新規募集・設定ファンド
CAM「ベトナム成長株ファンド（年1回決算型）」など3本
90 販売会社情報 横浜銀、百五銀、北日本銀、あいり銀、朝日信金
92 運用会社情報 フィデリティ、ニッセイ、JPMorgan、三井住友DS
93 黄金時代到来！？なるほどインド講座（第9回）
世界トップクラスのインドIPO市場とユニコーン企業
イーストスプリング・インベストメンツ 取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友
94 オランダの年金運用と制度（第3回）
オランダ年金の三層構造 第一階層 基礎年金制度（AOW）
ヘルステクノロジーラボ 代表取締役社長 佐々木一成
95 シン・連載知新のつみたて投資（第71回） 紙は裏面を参照
日本つみたて投資協会 代表理事 太田 創

「ニッキン投信情報 別冊 金融機関別 窓販ファンドの騰落率一覧」は、下記URLまたはQRコードからデータを取得できます。 <https://www.nikken.co.jp/toushin/touraku.html>

NIKKIN INVESTMENT TRUST NEWS



<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

連載



2024年は、日本でも東京地下鉄（東京メトロ）のIPO（証券取引所への新規上場）が数年ぶりの大型案件としてニュースとなりました。今回はインドのIPO市場とユニコーン企業（推計企業価値が10億米ドル以上の未上場企業）について見ていきます。

2024年のインドIPO調達額は世界第2位

インドのIPO市場も活況で、その調達額は中国や日本を大きく上回り、米国に次ぐ第2位となりました（左グラフ）。例えば、Hyundai Motor India（韓国現代自動車のインド現地法人）のIPO調達額は33.4億米ドルで、東京メトロの24.3億米ドルを大きく上回りました。インドの資本市場に対する投資家の信頼がますます高まっています。

ユニコーン企業数は米中に次ぐ世界第3位

2024年12月時点で、世界のユニコーン企業数は米国が684社でトップ、次いで中国（162社）、インド（68社）の順。日本は14位、8社（右表）です。インドのユニコーン企業はフィンテックやeコマースなどの企業が多く、金融や通信業が特に発展している印象を受けます。また、地理的にもムンバイやデリーだけでなく、ベンガルールやプネー、グルガオンといった新興都市に多く所在している点も特徴的です。

アントレプレナーシップ（起業家精神）豊富なインド人

この活況は、インド株式市場の好調さも一因ですが、インド経済のユニークさが背景にあります。インドは力強い経済成長の過程にあり、ビジネスチャンスにあふれています。人口増加と所得向上により、爆発的に消費が増加、市場

が成長しているため、事業が軌道に乗れば企業が成功するイメージを描きやすいのです。また、物流や金融など社会的課題の解決がビジネスチャンスになる点も重要です。インドで企業訪問をした際、「インドではあらゆるサービスの普及率が低く、拡大余地が大きい。アプローチが正しければ、どんなビジネスも成功できる」というコメントも聞きました。

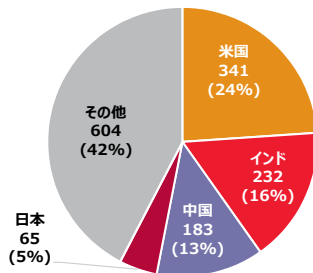
米国でのIT従事者がインドに帰国して起業のサイクル

インド人は理数系に強いイメージがありますが、その背景には教育があります。1990年代の経済自由化に伴い、自国内の産業に乏しかったインドはIT人材輩出のため理数系教育の高度化に取り組み、インド工科大学（IIT）など多くの高等教育機関や研究機関を設立、その結果、IT産業が発展し、米国でシステム開発に携わったIT従事者が、インド帰国後に起業し、国内の成長を加速させるサイクルが形成されました。また、急成長するデジタル経済と豊富な若年層人口が、インドのスタートアップエコシステムを支えています。さらに、モディ首相が2015年に「StartUp India」政策を発表、優秀なエンジニアや英語を話すことのできる人材が多く、人件費に価格優位性があることなどからスタートアップ企業が増加しています。グローバル企業がインドでR&D（研究開発）拠点を増加させていることも同様の理由です。シリコンバレーにはエコシステムがありスタートアップが育ちやすいが、日本にはスタートアップのエコシステムがないとよく言われますが、インドのように努力すれば米国外でもエコシステムは作れることが分かります。

（執筆：イーストスプリング・インベストメンツ
取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友）

図表 2024年 世界のIPO調達額とユニコーン企業数ランキング

国別IPO調達額（2024年、単位：億米ドル）



出所：Bloomberg L.P.のデータ（2025年1月6日時点、公表ベース）に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。本稿は執筆時点での情報に基づく筆者の個人的な見解であり、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の公式見解ではありません。

国別ユニコーン企業数ランキング（2024年12月時点）

順位	国名	企業数	推定企業価値合計 (億米ドル)
1	米国	684	25,448
2	中国	162	7,025
3	インド	68	1,716
4	英国	55	1,904
5	ドイツ	31	859
：			
14	日本	8	108

出所：CB Insightsのデータ（2024年12月時点）に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。